

# 機関連携プロジェクト予備研究(FS)公募

資料3

※FS: Feasibility Study

## 地球研プロジェクトの種別

個別連携  
プロジェクト

研究者コミュニティから地球環境問題の解決に資する独創的な領域融合研究のアイデアを広く公募する

未来設計  
プロジェクト

地球研の基幹研究ハブ部門が、研究成果の設計科学としての統合を目指して構想・育成する

機関連携  
プロジェクト

地球研が求める要件にしたがって大学・研究機関との協定のもとで共同研究として公募・実施する

## 地球研のミッション

人類が直面する地球環境問題を、(中略)問題の本質である「人間と自然の相互作用環」の解明(認識科学的アプローチ)にあたるとともに、真に豊かな人間社会の実現をめざす「未来可能性」の探求(設計科学的アプローチ)を試みる。

この試みには、既存の学問分野の枠組みを超えた新たな総合的視点に立つ「地球環境学」の構築が不可欠である。

総合地球環境学研究所は、大学共同利用機関として、地球環境問題に取り組む国内外の大学その他の研究機関等と連携しつつ、総合的な研究プロジェクトを推進しながらこの使命を達成する。

「総合地球環境学研究所における研究活動の基本方針」抜粋

**領域プログラム  
認識科学的アプローチ  
連携研究プロジェクト  
(個別の研究者のアイ  
デアを基盤)**



**機関連携プロ  
ジェクトを設計  
(研究機関の強  
みを活かす)**

**統合知  
(consilience)  
の構築**

**文明環境史  
領域プログラム**

**地球地域学  
領域プログラム**

**資源領域  
プログラム**

**循環領域  
プログラム**

**多様性領域  
プログラム**

統合知の構築に向けた  
5つのプログラムによる  
研究領域の確定

# 未来設計イニシアティブ

設計科学的アプローチ

未来設計プロジェクト

(地球研が未来可能な社会のあり方の設計に向けて形成)

## 風水土 イニシアティブ

物質圏を人間の生存と社会文化の存在基盤ととらえ、過去・現在・未来を往還した、地域と地球の統合理解

地球環境の変化に柔軟に対応する社会を設計

## 山野河海 イニシアティブ

生物圏から提供される生態系サービスと、生態系を持続的に利用してきた技術・知恵・文化の統合理解

環境負荷が低く豊かな生活を実現するのに必要なしくみを提言

## 生存知 イニシアティブ

生産・食料消費・医療のあり方に重きを置き、精神的価値観に基づく人間活動と環境の関係の統合理解

多様な文化や環境のもとでの人間のよりよい生き方を提言

総合地球環境学

統合知

地球地域学

循環

多様性

競争

文明環境史

第I期の  
領域プログラム

物質圏

IT圏

出社区

山陰区

精神圏

生物圏

第II期の未来設計イニシアティブ

## 機関連携プロジェクトの特徴

地球研の大学共同利用機関としての機能強化と、大学・研究機関の研究資源を生かした地球研プロジェクトのさらなる充実を目指す

地球研所内対応者を指名して連携機関と地球研の密接な協働を通じてプロジェクト提案を設計する

連携機関の実情に応じてプロジェクトリーダーの立場を弾力的に設定できる

これまでの「連携研究プロジェクト」がFS研究の前段階としてIS(インキュベーション研究)から開始していたのに対し、FS段階から開始する

研究プロジェクト評価委員会(PEC)においてFSの採択審議が行われる

## 機関連携FS申請の要件

国公立大学、独立行政法人等の研究機関に所属している常勤教員ないし常勤研究員をFS責任者として、機関の長が申請

機関連携FSから機関連携プロジェクトに進展した場合には、FS責任者がプロジェクトリーダーまたは共同リーダーを務める

地球研との連携協定を締結している機関は、FS期間中に地球研との協議のもとに、機関連携プロジェクトの実施に必要な覚書等の準備をしていただく(地球研との連携協定をしていない機関とは、この期間に新たに協定締結準備)

機関連携FSを終了し、機関連携プロジェクトへの移行審査で採択された場合、そのプロジェクトリーダーは所属機関から地球研への出向あるいは派遣、または地球研の専任教員になる

(身分上の扱いと地球研におけるエフォート率等は個別に相談。また、これらについては連携協定ないし覚書等に明記)

## 注意していただきたいこと

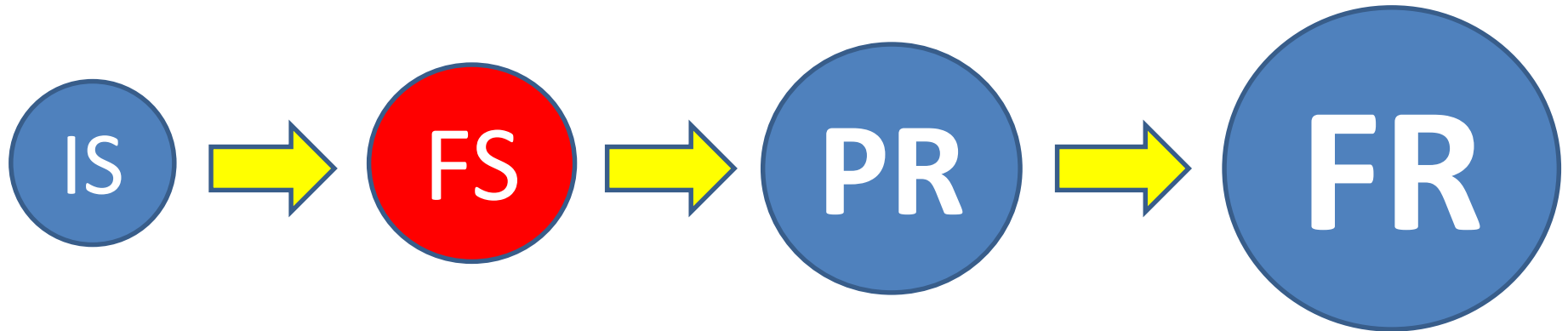
これは地球研が研究費を提供するファンディング（研究補助金や受託研究）ではありません。

連携機関と地球研が互いの特徴を生かして連携し、単独ではなしえない研究を推進する共同研究です。

そのために、両者の研究資源やこれまでの成果を十分に活用してプロジェクトを設計します。

FS責任者と地球研所内対応者が密に協議して、お互いのアイデアやアプローチについて相互に学びあうプロセスで研究を進めます。

# 地球研プロジェクト形成プロセス(個人連携研究プロジェクト)



インキュベーション  
研究  
6か月～1年

予備研究  
6か月～1年

プレリサーチ  
1年程度

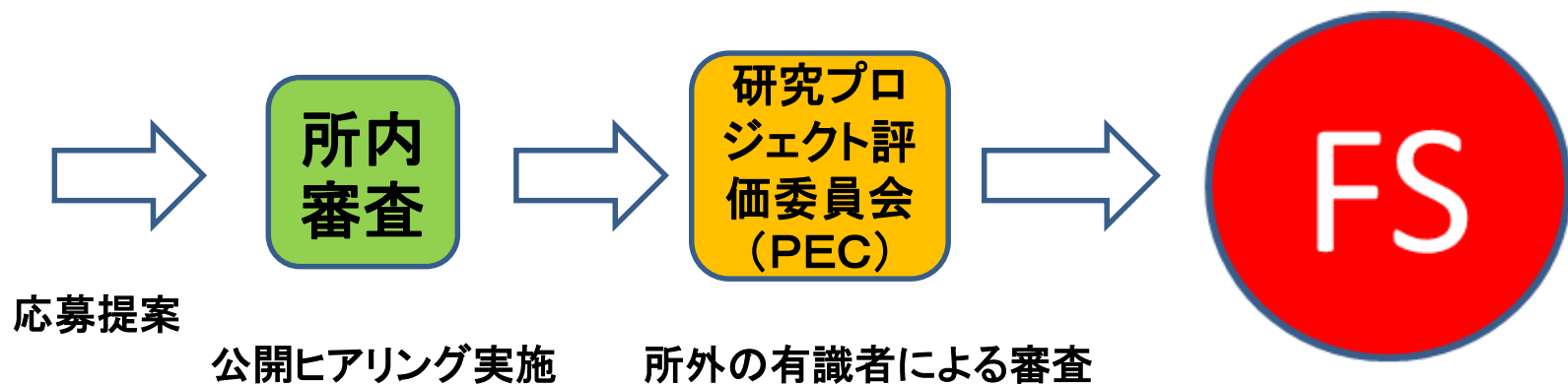
本研究  
3～5年

※IS:Incubation Study , PR:Pre-Research , FR :Full Research  
※「機関連携プロジェクト」は、FS から始める



# 機関連携プロジェクト予備研究(FS)形成のプロセス

応募提案を受けて公開ヒアリングと所内審査を実施  
所外有識者による研究プロジェクト評価委員会(PEC)による審査  
1年間のFSを実施  
所内審査およびPECによる審査  
地球研運営会議の承認を経て本研究(3~5年)に進む



機関連携FSとしての採択が認められると1年のFSを実施していただきます。

# 個別連携・機関連携プロジェクト採択状況

申請年度	申請 件数	IS過程		FS過程		FR(PR)過程	
		採択件数	採択率	採択件数	採択率	採択件数	採択率
平成21年度 (連携)	10	8	80.0%	5	50.0%	2	20.0%
平成22年度 (連携)	7	6	85.7%	5	71.4%	1	14.3%
平成23年度 (連携)	7	5	71.4%	2	28.6%	1	14.3%
平成24年度 (連携)	14	6	42.9%	4	28.6%	1 (H26現在)	
平成25年度 (連携)	16	11	68.8%	4	25.0%		
平成26年度 (個別連携)	4	1	25.0%				
平成26年度 (機関連携)	10	—	—	2	20.0%		

※採択率は、申請件数に対する採択率

## 機関連携プロジェクトに求めるもの

機関連携プロジェクトの提案にあたって、研究内容に求められるもの(到達目標)

FSの提案に際しては、これらの項目を十分に検討してください

### 機関連携プロジェクトに期待する研究内容

#### (1) 連携機関の研究リソースの活用

連携する研究機関(大学・研究機関等)がこれまでに蓄積してきた地球環境学にかかわる独自の研究リソースを十分に活用するものであると同時に、地球研との連携、並びに関連する国内外の研究者コミュニティとの広範な協働を通じて、さらなるイノベーションが期待できること。

# 機関連携プロジェクトに求めるもの

## (2) 地球研の研究資源の活用

地球研のこれまでの研究プロジェクトの成果、および未来設計イニシアティブが探求してきた設計科学としての統合のアプローチを活用し、連携機関だけでは実現が困難な独創的な研究の地平を開拓するものであること。

## (3) 地球研における地球環境学推進への貢献

地球研が推進する人間と自然系の相互作用のあり方の解明を基軸とする未来設計に資する地球環境学の推進に、機関連携を通じて新たな視点とアプローチをもたらし、革新的な成果を生み出す可能性を有すること。

## 全てのプロジェクトに期待すること

すべての地球研プロジェクトは以下の項目を満たすことが求められる(到達目標)

青字は特に機関連携プロジェクトにおいて重視するもの

### (4) 解決すべき地球環境問題の明確化

研究プロジェクトが解決を目指す地球環境問題が独自の視点から明確に定義され、その解決が持続可能な社会の構築と人類の福利の向上に資するものであることが明示されていること。

### (5) 課題解決に駆動された学際的な統合

前項で明示された地球環境問題の解決に資する学際研究であり、そのために必要な学問分野を有機的に統合するものあること。

# 全てのプロジェクトに期待すること

## (6) 社会的インパクト

研究成果が単に学術コミュニティにおけるインパクトにととまらず、地球環境問題の解決を促す可能性を持つこと。

## (7) 国際的な共同研究の推進

当該の地球環境問題の解決にかかわる独創性と高い学術性を有し、国際的な研究をリードできること。

## (8) トランスディシプリナリティ

当該の地球環境問題の解決にかかわる社会の多様なステークホルダーと協働した研究設計 (co-design)、研究の推進 (co-production)、研究成果の活用 (co-delivery) のプロセスを可能な限り取り入れた研究であること。

# 機関連携プロジェクト予備研究(FS)公募

## 機関連携FS形成の流れ

### ①提案課題のタイトル・要旨の提出 平成26年7月18日(金)締切

機関連携FSを申請しようとする者は、それに先立ち、所属機関長の承認の元に提案課題のタイトル、要旨、希望する地球研所内対応者氏名(希望がある場合)を提出していただきます。

### ②地球研所内対応者の決定

地球研がこれに基づいて所内対応者(機関連携プロジェクトの形成プロセス全体を通じて地球研との協議の窓口となる者)を決定します。所内対応者を通じた地球研との密な協議のもとに機関連携FSの課題と内容を設計していただきます。

### ③申請書の提出 平成26年11月7日(金)締切(厳守)

④地球研所内公開ヒアリングおよび所内審査委員会(PRT)による審査  
平成26年11月25日(火)

⑤研究プロジェクト評価委員会(PEC)による審査  
平成27年2月19日(木)～20日(金)

# 機関連携プロジェクト予備研究(FS)公募

## 研究期間

1年(平成27年4月1日～平成28年3月31日。)

## FSの所要経費

人件費、国内旅費、外国旅費、物件費等、諸謝金について、予算の範囲内において地球研が負担します。1件当たり最大1,000万円で予算計画を立ててください。(人件費に関しては、FS責任者に係る経費は含みません。)

## 他のプロジェクト種別への移行

機関連携FSは、所内担当者との協議を通じて、他のカテゴリーのプロジェクト(個人連携プロジェクトまたは未来設計プロジェクト)として形成することが妥当と判断された場合には、PRTの承認のもとに、これらのカテゴリーのプロジェクト候補としてPECによる本研究への移行審査を受けることができます。



**新しい機関連携プロジェクトは、連携機関のみなさんとの協働作業を通じて作り上げ、実施していくものです。**

**プロジェクト形成と実施の過程を通じて、私たち地球研も学び続け、進化していきます。**

**みなさんのご提案をお待ちしています。**